

団員集結、火災ゼロを誓う

消防団出初め式

一月八日、伊豆の国市消防団出初め式が行われました。会場の葦山運動公園グラウンドには団長以下、葦山・大仁・伊豆長岡の三方面隊、二十個分団の団員が勢ぞろいしました。

式典では、訓練礼式の披露や功労表彰などが、きびきびとした動作で行われ、狩野川グリーン公園に会場を移しての一斉放水も行われました。

団員たちは、市長や団長、来賓からの訓辞などを受け、気持ち新たに、さらなる消防活動への精進を誓いました。

表彰された皆さんは、次のとおりです（敬称略）。



訓練礼式の披露（写真は葦山方面隊選抜メンバー）

静岡県消防協会長表彰

【功労賞・勤続功労賞十五年】

- 伊豆長岡方面隊本部長 鈴木 建彦
- 葦山方面隊第五分団部長 堀内 国広
- 大仁方面隊本部長 芹澤 浩二
- 大仁方面隊本部長 石井 巖雄
- 伊豆長岡方面隊本部長 渡辺 久芳
- 伊豆長岡方面隊本部長 曾根原英雄
- 伊豆長岡方面隊本部長 萩原 幸雄

静岡県消防協会田方支部長表彰

- （葦山方面隊）
 - 第一分団分団長 下田 寛之
 - 第二分団分団長 渡辺 学
 - 第三分団分団長 山本 秀臣
 - 第四分団分団長 川口 哲也
 - 第五分団分団長 岩野 正和
- （大仁方面隊）
 - 第一分団分団長 森 和仁
 - 第二分団分団長 岩崎 重典
 - 第三分団分団長 神戸 貴生
 - 第四分団分団長 菅野 芳春
 - 第五分団分団長 土屋 克彦
 - 第六分団分団長 西島 和仁
 - 第七分団分団長 公野 克己
 - 第八分団分団長 市川 久男
- （伊豆長岡方面隊）
 - 第一分団分団長 園田 哉夫
 - 第二分団分団長 新井 貴之
 - 第四分団分団長 渡辺 邦人

- 葦山方面隊第五分団分団長 岩野 正和
- 大仁方面隊第八分団分団長 高田 哲也
- 伊豆長岡方面隊第一分団分団長 坂本 達也
- 葦山方面隊第五分団分団長 坂本 達也
- 大仁方面隊第八分団分団長 竹田 憲一
- 葦山方面隊第三分団分団長 杉山 孝
- 大仁方面隊第一分団分団員 土屋 猛是

田方支部北豆支会会長表彰

- （葦山方面隊）
 - 第一分団副分団長 秋山 貴宏
 - 第二分団副分団長 松下 聡
 - 第三分団副分団長 内野 博志
 - 第四分団副分団長 加藤 剛
 - 第五分団副分団長 杉山 勇治
- （大仁方面隊）
 - 第一分団副分団長 菊池 貴洋
 - 第二分団副分団長 岩崎 克彦
 - 第三分団副分団長 鈴木 隆幸
 - 第四分団副分団長 宮永 一成
 - 第五分団副分団長 村越 俊介
 - 第六分団副分団長 古屋 和義
 - 第七分団副分団長 小川 和弘
 - 第八分団副分団長 土屋 真樹
- （伊豆長岡方面隊）
 - 第一分団副分団長 佐藤 勇一
 - 第二分団副分団長 坂本 達也
 - 第三分団副分団長 山下 崇
 - 第四分団副分団長 町田 公二
 - 第五分団副分団長 佐藤 常義
 - 第六分団副分団長 萩原 一英
 - 第七分団副分団長 萩原 一英
- （大仁方面隊）
 - 第二分団部長 小川 誠
 - 第三分団部長 橋本 功太



静岡県消防協会長年表彰を受ける鈴木本部長

- 第四分団部長 遠藤 真和
- 第四分団部長 西島 謙
- 第四分団部長 相原伸一郎
- 第四分団部長 菅尾 泰史
- 第六分団部長 萩原 大介
- 第六分団部長 鈴木 俊一
- 第六分団部長 西島 一行
- 第六分団部長 小島 正雄
- （伊豆長岡方面隊）
 - 第一分団部長 関野 謙
 - 第二分団部長 塩崎 隆一
 - 第二分団部長 土橋 到
 - 第四分団部長 井川 甲子
 - 第五分団部長 井川 宏之
 - 第六分団部長 内田 佳秀
 - 第七分団部長 八木 哲也
 - 第七分団部長 久保田和義

温泉と健康

第9回 東洋医学と生体防御の機構

伊豆の国市は将来像を「自然を守り、文化を育む、魅力(ゆめ)ある温泉健康都市」と決めました。

このコーナーでは「温泉と健康」について、各分野、様々な角度から紹介していきます。



松山 陽太郎（南江間）
白寿医療学院鍼灸学科勤務。
医学博士として講師活動では一貫して「教育現場から鍼灸術をよりアカデミックな現代鍼灸学へ進化させる」というテーマを追求している。はり師、きゅう師、柔道整復師、薬剤師。

白寿医療学院では、理学療法科、柔道整復科とともに、鍼灸学科が併設されています。鍼灸は、この三学科の中で、おそらく皆さんに最もよく知られている分野だろうと思われそうですが、少し改まって、東洋医学のことについて書き記してみたいと思います。

東洋医学の考え方

東洋医学・現代医学は、西洋医学のように、体の働きを異常に對し外からそれを中和、消去する作用を持った薬物を投与するという考え方や体の形態の異常（ガンや重度

の潰瘍、変形など）に對し、それを切除、排除、成形するという考え方とは異なり、病気を引き起こす力に對抗する体の働き方を強化することで健康を維持し、取り戻そうとする考え方で治療体系が構成されています。

これには当然限界もありませんが、健康な生活の維持に大きな可能性を持った医学であると考えられます。東洋医学のこのような考え方を突き詰めるると、体を正常な状態からはずれないように守り、正しい状態を維持する働き、すなわち、生体防御の機構に對す

る働きかけであるとまとめることができます。

東洋医学四つの柱

東洋医学の治療体系は、大きく分けて四つあります。一つは按摩術、二つに針灸術、三つ目に草根木皮を一定の疾病観に基づいて組み合わせる用いる湯液（漢方薬）療法、そして四つ目に自己鍛錬療法といえる気功療法です。

これらはずべて、基本的に体の機能に働きかけて、本来持っている体の機能を活発にし、病氣に對処しようとするものです。按摩術や鍼灸は広い意味で物理療法に属しています。温泉療法もまた物理療法の一つとして、同じ目的で古来から利用されてきたものでしょう。ドイツのパーデンバーデン、ロシアのソチなど、世界有数の温泉療養地では、入浴と物理療法を組み合わせた治療施設が完備して、多くの病氣の治療に効果を挙げています。中国ではもちろん、物理療法の一つに鍼灸療法が組み合わされて利用されています。一般に、生体防御の仕組みは、自律神経系、ホルモン系、そしてリンパ球の働きを代表とする免疫系の三系統が、互いに影響しあつ

て体を正常な状態に保つよう働いているのです。

温泉で活性化する「ガン攻撃細胞」

これらの中で、異物である病原体やがん細胞などを貪食したり、排除するように働く免疫系はとくに大切な役割を担っています。温泉の効果としては、四十度程度のぬるい温泉にゆっくり浸かることが免疫系の中で、がん細胞などを攻撃する「ナチュラルキラー（NK）細胞」という細胞を活性化させる事実も知られています。鍼灸術もまた、痛みの制御に加えて、現在はこの免疫機構への影響に大きな関心が持たれています。

お灸に関する私たちの実験では、マウスの血液中に墨を注入して、これが血液中から消える早さを測定すると、お灸をしたマウスでは、お灸をしないものより、速やかに墨が消えていくことが確認できました。このような簡単な研究から始まって、毎年の東洋医学会では多くの免疫に関する演題が報告されています。

鍼灸と温泉の相乗効果

ガンは、体の正常な細胞が変化した細胞ですが、その性質が正常な細胞とよく似ていて、これを異物として認識し、排除できないために増殖を許してしまうと考えられています。もし、細胞がガン化しても、それを早期に見つけ排除する仕組みが健全ならば、大事に至らないうちにその芽をみ取ることができると考えられます。ナチュラルキラー細胞という強い力を活性化させる温泉と、免疫系の反応を強化することが次々と明らかになりつつある鍼灸の効果を、相乗的に利用することに大きな可能性が感じられるのです。この他にも、軽い運動、明るい笑い、人との楽しいコミュニケーションなども免疫系の細胞の働きを強化することが報告されています。

豊富な温泉を抱えたこの土地こそが、温泉を媒介とした明るく楽しいコミュニケーションの場となり、運動後の温泉浴、それに合わせて東洋医学を利用するといった、古くて新しい健康術を存分に生かした生活を楽しめる大きな可能性を持っていることが期待されるのです。

問合せ 温泉健康都市推進室
電話 055 948 1413